

寄った財源を充てていただきたい。県の事業だから県に任せるではなく、独自に進めていただきたい。この件が先に出ない、解決に向かつて進まないとなれば、市町合併の大きな弊害の一つとしてとらえられる可能性もあると考え、執行部にお願した経緯である。

再答弁(市長)

8657名の方から要望をいただき、大変重く受け

止めている。議会の意向もあるが、県と積極的に協議し、より良い方向性をつけていきたい。

再々質問

お話しした内容の要望であると認識いただければ結構である。

(その他の質問)

○防災無線について

○旧石下地区(石下支所)の土地活用について

絹西小の児童生徒数の増加に伴う学校建設について

中村 安雄 議員

質問

①きぬの里の人口増加は目を見張るものがあり、国の教育方針が変わり、35人学級制になると、絹西小学校では、各学年3クラスが必要となる。今後の動向を示せ。

②今後の絹西小は生徒が増え、広い運動場も必要となる。現時点では4棟の校舎があり、また、屋内体育館や学童クラブもある。このように、次々と建物を建てていくとグラウンドがなくなってくる。計画する校舎の位置をどう考えるか。関連して日照問題では、特に冬になると校舎の影が長

有効である。道路計画を示せ。

答弁(教育部長)

①児童数増の主因は、きぬの里における出生及び流入児童数の増加にあり、現在、1年生が35人学級となっている。来年度以降の予定者は、いずれも、35人学級制となった場合、3学級編成となる数字である。

②現在の特別教室棟南側へ建築予定である。特別教室棟との間隔は10m程度が確保出来、日照に関する障害は生じない。グラウンドの面積に関しても、現在の面積を確保できる。

③現在は、1㎡/80円、年間150万ほどで借用。借地料更新については、20年度から据え置きであり、地権者から増額の要望があり、24年度改定を検討している。借地部分の購入は、今後の課題とさせていた

答弁(都市建設部長)

④PTAから、地域促進バスと歩道設置要望を受け、学校周辺道路拡幅工事の測量に着手した。道路幅員は路肩を含め5m、歩道が2・5mで7・5mの計画である。今後、2年程度での完成を目指す。

再質問

現在ほど、土地の安いときはないだろう。市に売却したものには税金がかからず、その辺りも考え、借地部分の買収を検討願いたい。通学バスについては、道路が広がれば安心な通学になり、ぜひ、完成させていきたい。

(その他の質問)

○震災被害による学校建設と、教育行政について

○粗大ごみの有料化に伴う不法投棄に対する対応策

生涯学習教室・市民講座のIT活用について

金子 晃久 議員

質問

現在の社会構造は、工業社会から情報社会に完全に移行を完了した。身近な例では、住民基本台帳ネットワークシステムに代表される情報の共有、集約が行政効率を上げ、市民サービスの向上に寄与している。政治分野においても、ネット選挙の解禁や電子政府、電子投票の実現がその議論の最終局面に入りつつある状況である。身近な山の資源を利用し、大都市の高級料亭で料理に添えられる葉っぱを出荷するビジネスに成

功した徳島県の上勝町では、お年寄りがスマートフォンを片手に、ipadなどのタブレットを操作し市場価格や出荷に必要な環境を調べるなど、技術を余すところ無く使っている地域もある。当市でも、全世代の市民が情報端末の活用を積極的に行えば、経済的、文化的な可能性を大きくひろげること、私は確信している。これらのことから、次の質問をする。

①生涯学習教室や市民講座の中でITを活用する教室、または講座の開催実績



絹西小学校